

ニョー・ニョー・エイ研究員（ミャンマー）



はじめまして。私はミャンマーから来ました、ニョー・ニョー・エイと申します。自国ミャンマーでは、社会福祉省に2010年に入省し、現在は同省の救済再定住局において上級事務員として働いています。

それでは、まずミャンマーの概要について紹介致します。人口はおよそ6,000万人で、行政的にはミャンマーは7つの地方と7つの州に分類されています。ミャンマーは主要産業は農業です。また、国土は676,578平方キロメートルあり、東南アジアでは2番目に大きな国です。南北の距離はおよそ2,200キロ、東西はおよそ925キロで、中国、ラオス、タイ、インド、バングラデシュと隣接し、ベンガル湾とアンダマン海を有しています。自然災害に関しては、サイクロン、洪水、地滑り、地震、津波、干ばつ、火災など、多くの災害を経験しています。

近年の報告書によると、災害の発生種別は自然火災が73%、洪水が11%、サイクロンが12%、地震、津波、地滑りを含んだその他災害が4%です。皆様の記憶に新しい、2008年に発生したサイクロンナルギスは、ミャンマーの歴史において最も悲劇的な災害でした。本災害を契機にして、私が所属する社会福祉省は緊急オペレーションセンターを設置しました。活動のひとつとして、エーヤワディーという都市においては、JICAと共同で早期警報システムの活用について事業を始めました。防災法は2013年7月に制定され、現在では防災に関する指針となっています。

最後に、今回の研修の機会を頂いたADRCの職員の方に感謝を申し上げます。